

【評価の内訳】

協働事業の評価	評価数
当該協働事業を実施したことで、具体的に市民サービスが向上する等、適切な協働事業として評価できるものである。	1
ほぼ適切な協働事業として評価できるものである。	7
協働事業として、うまく機能しなかった。	2

【事業に関する意見】

1	昨年度から継続しての参加者もいることから事業の必要性を感じるが、参加者が少ないことが課題である。参加したいと思っていて参加しない児童生徒がいるのであれば、参加できない原因を特定しないと、参加者数は増加しないと思う。
2	参加者が少なかった。子どもにとって参加への敷居が高すぎるように感じます。「いじめ」、「不登校」といった問題に「対話」をとおして取り組むという理念は素晴らしいものと思いますので、もっと子どもが楽しそうと感じ、気軽に参加できるような工夫ができればよいのではないのでしょうか。
3	テーマを変えて全6回の対話カフェを企画し、ファシリテーター入門体験会が開催でき評価できる。令和5年度に引続きの事業だと思うが、対話カフェは、児童・生徒にテーマについてアンケートなどで興味がある内容を収集して行う方法もあると思いました。 対話体験講座は前回以上に参加者増え、興味を持って貰えつつあると感じました。
4	「こども対話カフェ」が実施されないことがあったが、対象者が限定される状況等を勘案するとやむを得ないものと判断いたします。「対話カフェ」の内容について、多くの方に認識してもらえそうな活動を今後も期待いたします。市内に限らず対象者を拡大するなどして、この取り組みをさらに広げていただきたいと思います。
5	やろうとしていることはよいものであると思いますが、テーマが子ども達にとってとっつきにくいものなのかなと感じます。子ども対話カフェは参加者が少なく残念でした。哲学対話はそれなりの参加者があったので、これをうまく子ども対話カフェにつなげられたらと感じます。やろうとしていることはいいと思います。
6	「対話カフェつむぎ」が普段から実施しているものとの差別化が図れていないと思う。 事業自体の必要性は理解しているが、報告書を見るかぎりでは、協働事業としてうまく機能したとは感じなかった。
7	子どもや保護者に寄り添い、安心して話せる場所として本事業の必要性は感じますので、実施結果の分析を丁寧に行って欲しいと思います。
8	参加者数が少ない点が少し評価を下げております。事業としては継続していくべきと考えます。参加人数の課題については、今後学校教育のみならず、市長部局とも連携を深め、解決していただきたい。
9	広報のあり方の見直し、開催会場の変更等、参加しやすい環境をつくるため、様々な取り組みが行われていると考える。 ただし、本事業においては、対象年齢が9～15歳程度の多感な時期の子ども達であること、また、対話が苦手と思われる子ども達に参加してほしいということを踏まえ、もっと気楽に・気軽に参加できる場所（例えば、学校の授業後の開催）や案内時の「対話」という趣旨を弱めるなど、検討の余地があるのではと考える。
10	担当課と団体とが熱意を持ち、連携をとりながら互いの役割のもと同じ目標を共有し、事業を進めていたことが協働事業として評価されます。参加者数に苦戦をしていますが、周知方法や開催場所の検討など、工夫をしていただき、多くの子ども達に参加をいただけるよう期待しております。